

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2023年9月19日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、9月27日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

2023年9月27日

サノフィ、ソーシャルインパクトと気候変動に対する コミットメントの一環として脆弱なコミュニティを支援

パリ、2023年9月19日 - 第78回国連総会に各国の首脳が集うなか、サノフィは、気候変動の影響を受ける、アンメット・メディカルニーズの高いコミュニティに必要な支援を行っています。サノフィは、グローバルなヘルスケア企業として、気候変動と、気候変動が人々の健康にもたらす影響に取り組むことで、ソーシャルインパクトを生み出すというコミットメントを掲げ、その一環としてこれらの活動を展開しています。

脆弱なコミュニティに住む人々の健康に気候変動が及ぼす影響に対処するには、適応に向けた対策やイニシアチブの強化が重要です。サノフィは、自社の慈善団体である Foundation S (サノフィ・コレクティブ財団)を通じて、気候変動の影響を受ける脆弱なコミュニティに向けて、地域主導の適応プログラムやヘルス・レジリエンス・プログラムの強化を進めています。Foundation S は本日、これらの活動の支援のために2030年までに約4000万ユーロを拠出することを表明しました。

ポール・ハドソン(Paul Hudson)

サノフィ 最高経営責任者(CEO)

「私たちサノフィは、2015年のCOP21で製薬企業として初めて、そして唯一、気候変動と、気候変動が人々の健康に及ぼす影響を論じました。以来、サノフィはサプライチェーンにおける排出量削減を進め、私たちの製品が環境に及ぼす影響を最小限に留める活動を展開してきました。私たちサノフィは2030年までのカーボンニュートラル達成を目標に掲げて歩みを進めていますが、同時に全てのステークホルダーと連携し、気候変動が人々の健康に及ぼす影響に対する取り組みを進めたいと考えています。各国政府、医療専門家、患者団体、そして規制当局と連携することで、医療システムの脱炭素化を加速させることができ、また気候変動の影響を受けやすい地域社会に向けた適応策の開発への投資を拡大することで、取り組みを進めることができます。サノフィのコミットメントは全て、具体的で透明性の高い行動に根ざすものであり、気候変動への世界規模での適応と対策に、より大きな責任感をもって取り組みたいとの考えに基づいています」

環境対策は、まず自社の施設から

サノフィは、2030年までのカーボンニュートラル達成を目標に掲げるとともに、バリューチェーン全体で製品と企業活動が環境に与える影響を最小限に抑え、環境変化へのレジリエンスを強化することを包括的で全社的な目標としてしています。この戦略を支えるため、サノフィは2030年まで4億5000万ユーロを上回る投資を計画しています。この資金は主に、エネルギー効率の向上や、エネルギー供給の脱炭素化、資源の循環利用(Reduce(発生抑制)、Reuse(再使用)、Recycle(再生利用)、Recover(エネルギー回収))の推進、地下水採水量の削減などの企業プログラムに投じます。

サノフィは、国連の「Race to Zero」キャンペーンに参加し、すべての排出項目のカーボンニュートラルを2030年までに達成することを目標に掲げ、温室効果ガス排出を実質ゼロ達成の目標年度を従来より5年早め、2045年に設定しました。2022年末時点の温室効果ガスの排出量は、2019年よりスコープ1および2では29%、スコープ3では7%減少しました。また、サノフィは、製品の環境フットプリントの削減に向けて徹底し

たアプローチを展開しています。例えば、全てのワクチン製品について、プリスター包装のプラスチック使用を2027年までに廃止する予定です。現在のプラスチック使用率は33%です。現在、企業敷地内で供給される電力の62%を再生可能エネルギーで賄っていますが、これを2030年に100%まで引き上げることを目標としています。サノフィが南仏のNeuville sur Saône(ヌーヴィル＝シュル＝ソーヌ)とシンガポールに新設する2025年稼働予定の製造施設「EVolutive Facility」などの最新施設は、カーボンニュートラル施設として設計され、埋立ゴミを排出せず、廃棄物の100%は再生するかエネルギーとして再利用します。

また、サノフィの最も革新的な製品が、患者さんのケアパスウェイ全体の排出削減に果たす効果を検証するため、複数のパイロットプログラムを実施しています。これらのパイロットプログラムはRSウイルス感染症やアトピー性皮膚炎、インフルエンザに対する医薬品とワクチンについて行われ、これらの製品による入院率や外来受診回数、患者相談件数の減少が、患者さんの健康アウトカムの向上につながると同時にCO2排出量削減につながることを示しました。また、アトピー性皮膚炎の患者さんがオンライン診療を受けるメリットを検討したパイロットプログラムでは、医療施設を訪れる頻度が減少することでCO2排出量の削減が得られ、患者さんの快適性と転帰が向上しました。サノフィは今後もパイロットプログラムを実施し、健康転帰の改善とともに温室効果ガスの排出削減をもたらすベスト・イン・クラスの治療薬のメリットについてさらにデータを収集し、理解を深めてまいります。

Josep Catllà

サノフィ コーポレートアフェアーズヘッド

「私たちサノフィは、サステナビリティを長期戦略の中核に位置づけており、私たちが活動する際の考え方や行動にもサステナビリティを組み込んでいます。私たちは、環境対策の加速や、脆弱なコミュニティにおける医療アクセスの向上や、職場のダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(DE&I)の推進など、さまざまな活動を展開していますが、いずれの活動も、従業員、地域社会、そして社会全体に持続可能なインパクトを生み出したいとの目標があります。サノフィが率先して活動を展開しているのは、航空輸送でのCO2排出量より多いといわれる、ヘルスケアシステムの脱炭素化に向けた取り組みを世界中のコミュニティに広げたいとの思いからです。各国政府や地方自治体、医療施設などと連携して排出量を大幅に削減しつつ、私たちの本業であるファースト・イン・クラスやベスト・イン・クラスの医薬品とワクチンをお届けする活動を進めることで、私たちは、地球をより健康にするためのインパクトを倍増させることができるのです」

力をあわせて一歩先へ

サノフィは事業活動やサプライチェーンによる排出削減の枠を超えて、ヘルスケアシステムの脱炭素化と、持続可能な医療を提供することに力を入れています。医療業界の温室ガス排出量は世界全体の排出量の5%を占め、そのうち40%以上はケアパスウェイからの排出が占めています。COP26では[SIMヘルスシステムタスクフォース](#)と呼ばれるヘルスケアリーダーの官民連携パートナーシップが立ち上げられ、温室効果ガス排出量が実質ゼロで、患者さんを中心におくヘルスケアシステムの早期実現に向けた活動を展開していますが、サノフィはこのタスクフォースの主力メンバー企業の1社です。サノフィは、いくつかの重要なイニシアチブを主導しています。例えば、患者ケアパスウェイグループでは、患者さんが治療を受ける段階で排出される温室効果ガスを算出する国際的な枠組みの策定、製品のライフサイクル評価の枠組みや、医薬品が気候に及ぼす影響を測定するツールの開発に焦点をあてた活動を進めています。

国連総会におけるサノフィの活動

9月20日、サノフィは第78回国連総会で複数のサイドイベントを主催します。

サノフィの**Foundation S**は、Foreign Policy誌とAfrica Europe Foundationとともに、"**Time to Adapt: Accelerating Climate Adaptation for Health**"(今こそ適応すべき時:気候適応を加速し健康を守る)と題したハイレベルの戦略的対話を主催し、気候変動が健康に及ぼす影響を論じ、低中所得国における地域主導の気候適応活動の支援に必要な資金の動員を促します。低中所得国は、気候変動への関与はきわめて小さいにもかかわらず、気候変動から受ける影響は最も大きく、罹患率や死亡率が上昇し、生計の手段が失われ、移住が余儀なくされるなど、さまざまな影響を受けています。

Foundation Sはその活動の一環として、地域社会が気候変動による健康への影響に備え、対策を講じる力の強化を促すため、いくつかのファースト・イン・クラスの助成金プログラムを立ち上げました。シンクタンク

「Collective MindS」は、気候変動の影響を受けやすい国々において現地レベルで行う気候適応とヘルス・レジリエンスのためのイニシアチブを強化し、資金を投じることの必要性和重要性についてさらなる啓発を行うため、2023年9月20日に発表する活動報告書で再現可能でスケールアップが可能な適応ソリューションについて詳述し、気候変動が健康に及ぼす影響について地域レベルに取り組む多国間活動の緊急実施を呼びかけます。

サノフィのグローバルヘルスユニットがHealth Finance Institute (HFI)と共催するサイドイベント「**Unlocking Universal Health Coverage 2030: The Power of Health Financing**」(2030年までのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成に向けて:保健財政の力)では、財政の持続可能性、充足性、医療アクセスの向上に向けたツールの必要性について話し合い、ステークホルダーの動員を図るとともに、サノフィのグローバルヘルスユニットモデルを紹介します。HFIは、サノフィが支援する医療財政に関する研究の結論を発表し、より高い効率性と多様な参加者による連携が重要であることを報告します。

サノフィについて

サノフィは、人々の暮らしをより良くするため、科学のもたらす奇跡を追求する、というゆるぎない使命を原動力に進み続ける革新的でグローバルなヘルスケア企業です。約 100 カ国の社員は、医療を変革し、不可能を可能に変えるため、日々研鑽に努めています。私たちは、社会的責任と持続可能性を企業の本質とし、画期的な医薬品や生命を守るワクチンを開発し、世界何百万もの人々に届けていきます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

サノフィの今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功、サノフィが外部成長の機会から利益を得る可能性およびまたは規制当局の承認を得る能力、知的財産に関連するリスクおよび知的財産に関する現在係争中または将来に生じる訴訟、当該の訴訟の最終結果に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、不安定な経済・市場情勢、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、パンデミックをはじめとする世界的危機が当社、顧客、サプライヤー、ベンダーその他のビジネスパートナーに及ぼす影響、これらのうちいずれかの財務状況、および当社の従業員、世界経済全体に及ぼす影響があり、またそのようなリスクと不確実性には、サノフィの 2022 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。